

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 18 日

所属	政策情報学部	職名	教授	氏名	讓原晶子
研究課題	身体表現と社会				
研究キーワード	パフォーマンス・アーツ、舞踊、身体、思想	当年度計画に対する達成度	4.当初の計画どおり研究が進まなかった		
関連するSDGs項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	11. 住み続けられるまちづくりを	16. 平和と公正をすべての人に	該当なし	

1. 研究成果の概要

19世紀における西洋芸術舞踊の変容、舞踊に対する価値観の転換の要因を探る本研究において、昨年度は、歴史的研究のための基本資料の収集と把握、実践的研究の企画、試行の段階に留まった。しかし、同じ研究課題を今年度も継続する予定であり、科研費の取得など、次のステップのための準備を整えることができた。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【著書・論文 (査読なし)】

西洋比較演劇研究会 合評会、『バレエはアラベスク ロマン主義以前からみたバレエ作品』(せりか書房, 2022年) 報告

【学会発表等】

(1) 西洋比較演劇研究会 2023年5月20日 第229回例会 合評会、『バレエはアラベスク ロマン主義以前からみたバレエ作品』(せりか書房, 2022年)

(2) 「モダニズム時代の舞踊譜」、ダンス・スコア特別講座シンポジウム「踊る文字—アヴァンギャルドが見た文字と身体」、於：愛知芸術文化センター2024年3月9日

3. 主な経費

現在投稿中の論文の英文チェック代として、研究費の大半を使用した。その他、舞踊研究会の開催費用および書籍代、資料整理のための人件費に使用した。

4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)

(1) 科研費基盤研究 (B) 「コンテンポラリーダンスの制度的基盤に関する比較分析」に研究分担者

(2) 2024年度科研費基盤研究 (C) 「社交舞踊の在り方から芸術舞踊史を捉え直す」の研究代表者として採択

(3) 丸善『演劇の事典』の編集委員

(本文は2ページ以内にまとめること)